

2009年9月12日開催

キルギス共和国ビシュケク市

第2回盆踊り大会 報告書

世界盆踊り連 家弓 重正
森戸 規子

1. 概要

明石さんの報告書（投稿）を参照してください。

2. 当日の様子

良い天候に恵まれて、凡そ600人の人出であった。

踊りの輪には多い時で200人位が参加、初めから最後まで踊っていた人もいる。

出店、ゲームも盛況であった。

新聞社、テレビ局の取材が来ていた

男性も女性も大人も子供も踊り、皆楽しそうであった。

事前の練習・講習会の効果が大きいと感じた。」

総合的にみて、成功、盛況であったと言える。

キヨシのズンドコ節（振りは炭坑節で踊る） ノリが良いので人気があった

花笠音頭（団扇使用） 静かな動きで優雅である

ドラえもん音頭 少し難しいそうに見えたが、皆一生懸命踊っていた

阿波踊り 簡単な動きでノリがよい。

3. 世界盆踊り連が参加した経緯

昨年の第1回盆踊り大会の開催に際し、明石さんへメールでいろいろとアドバイスを
したのが縁で、今年はキルギス日本人会会長から、応援参加の要請を頂いたので、家弓
と森戸さんが現地に出向いた。家弓は9月7日から15日まで、森戸さんは9日から14
日までビシュケクに滞在した。二人はボランティアとして参加した。

4. 世界盆踊り連の立場

今までの世界盆踊り連の活動は、盆踊りの主催者の立場であった。ところが今回は主催
者に対して側面から援助をするアドバイザーという立場で参加した。

つまり「世界盆踊り連」は、盆踊りをよりよくするためのノウハウを提供するコンサル
タントの立場であると言える。

5. 主催者の盆踊り実行委員会と「世界盆踊り連」との関係

盆踊りの実行委員会からは「セネガルと日本から「世界盆踊り連」のメンバーが応援に来るといことで、委員会の中に緊張感が生まれ今回の良い結果につながった。」というコメントもいただいた。盆踊り実行委員会の方々からは非常に暖かい歓迎を受けたことを心から感謝する。

6. 「世界盆踊り連」が現地で行ったこと

1) 踊りの事前講習会 10 回に参加した。 9 月 7 日から 12 日まで、

 KRJC 内での練習 4 回 アトムとリードダンサー達と

 KRJC の外で出前講習会 6 回 大学で 4 回、BIS で 1 回 No.21 学校で 1 回

2) 踊りの講習会では必ず阿波踊りを教えた。阿波踊りの指導は家弓と森戸さんが担当した。

 またノリの良い阿波踊りの曲を用意していった。民謡調より、本場徳島の踊りの録音の方が、ノリが良いのである。

 本番の阿波踊りの練り歩きを家弓リードした。女性の踊り子は段ボール紙でつくった編み笠を被って、優雅に踊った。最後の締め阿波踊りでは、ステージで家弓と森戸さんと 5 分間踊った。

3) 大江戸太鼓と調整練習 2 回実施した 9 月 10 日と 11 日

 盆踊り当日にお囃子を叩く二人のキルギス人太鼓奏者に対して、盆踊りが踊りやすいように演奏してもらおうようにできた。阿波踊りでは鉦を叩いてもらったのがよかった。去年は二人の太鼓奏者が彼等のパフォーマンスのように叩いたので踊りにくかったと明石さんが一番心配していたことであった。明石さんが言っても彼等は理解できなかったようだが、私が説明したらよく理解してくれた。私も太鼓をやるので彼等も聞く耳を持ってくれたようである。

 この二人の奏者は、CD で繰り返し日本の曲を聴きながら、熱心に練習をしていた。

4) 本番の全体をみて、踊り易いようにした。

 ステージの床の固定、大きなスピーカーの位置を修正、阿波踊りに鉦を入れる

 見ている人を踊りの輪に誘うなど、

5) 会場の見取り図を作成した

6) 全体のビデオの撮影をした（但し、阿波踊りの練り歩きの部分は撮れていなかった）

 このビデオを見ながら反省会をしたところ、細かい改善点がいくつか見つかった。

7. 参考となる工夫が随所に見られた

○昨年「盆踊りをしたい。」と明石さんが叫んで、第 1 回盆踊りが実現した。

 今年は更に盛り上がった盆踊りとなったのは、明石さんの人柄によるところが大きいと思えた。日本人、キルギス人を含めて約 40 人が実行委員会やサポーターとして協力した。

 打ちあげの夕食会のときは賑やかであった。

○明石さんは日本舞踊の名取であり、丁寧にきちんと踊りを教えている。特に人文大学のアトムへは日本舞踊を 1 年半以上教えて、教え子も上達している。明石さんの帰国後は

どうなるのか心配である。

○盆踊りのために、新たにリードダンサーを募集して1月前から踊りを教えてきた。

○段ボールの編みがさ（直径54cm）を作り、阿波踊りの時にかぶせて練り歩きをした。

○団扇300本を調達した

明石さんの前の会社や友人の伝手でウチワを集め、それを日本からキルギスへアクセスを払って自分で持ってきたり、友人に持って来てもらったりした。そのウチワの片面に「キルギス盆踊り大会」と書いた紙を丁寧に張って盆踊りの時の参加者に配り、それで花笠音頭と阿波踊りを踊った。会場で渡したウチワのほとんどが回収されなかった。

○ステージは机を並べて3.5m四方、高さ70cmのステージを作りその上に大きな合板を2枚置いただけ。周囲は紅白の布を交互に画鋏でとめただけと簡単でお金のかからない方法を採用した。

8. 課題

○事前の練習に参加したのは女性だけであった。これは国民性なのか。

○踊りの輪が切れた所があるかと思えば、団子状態でくっつきあって自由に踊れないところもあった。海外では、踊り易い間隔を維持しながら途切れない踊りの輪を作ることが難しい。銅像の周りの正面席の近辺は人が多くイモ洗い状態であるが、その反対側は踊り手がいない状態であった。これは踊りの輪が大き過ぎたともいえるか？ ステージが踊りの輪の中心にないので、どうしてもステージ周りに集まってしまう傾向があるようだ。次回はステージの位置を工夫することも考えられよう。

○明石さんは、日本舞踊の延長で盆踊りの振りを教えているので、これは女性の仕草としては良いのであるが、男性もこれと同じ振りになると、日本人から見ると少し不自然に見えるかなと思っていた。でも、初めて踊るキルギス人はそこまでは正確にまねをできないので、心配するほどではなかった。

○KRJCの所長は10月で交代する。明石さんは1月に帰国する。明石さんの後任は太鼓の隊員であるが、盆踊りを続けることを期待したい。明石さんの指導のもとに踊りを覚えたアIMUMの女性とリードダンサーの女性を中心に来年も盆踊りを継承してもらいたい。今年の盆踊りが盛況であったので、是非来年に繋げてもらいたい。

9. 最後に

○ Dancers と呼ばれて

Bishkek International School へ盆踊りの出前講習に出かけました。ここには、JICA 所長のお子さん（5歳）、所員のお子さん（8歳）が通っています。その3クラスで講習会をし、彼等は本番の盆踊りにも来て踊っていました。そのクラスの先生や生徒からお礼のカード我々にたくさん送られてきました。その宛先には何と Dear Dancers と書かれてありました。明石さん、森戸さん、私の3人は彼等から見ると、踊り子に見えるのですね。我々は思わず笑ってしまいました。

10. 写真集



1. 事前の練習、KJRC でリードダンサー達と阿波踊りの練習



2. 事前の出前講習会 BIS で小学生達に教えた



3. 事前の出前講習会 難聴児童学校にて、講堂に 100 人位集まった



4. 会場の全景 非常にシンプルでお金がかからないステージ、低いので見る人の首が疲れない



5. 手製の段ボールの編み笠
直径 54cm を半折



6. 手製のプリントを張ったオリジナル団扇 300 枚

以上